

演出カスタム

今回の言葉物語は「演出カスタム」です。登場キャラクターからプレミアム発生率に至るまで自分で選び、変化させられる夢の機能、その光と影に少しふれてみたいと思います。

演出カスタム搭載機は、この4〜5年の間に急速に普及してきています。フルカスタム対応機もあれば、ボタンで手軽にモード変換させるものまで様々です。現在はパチンコにほとんどあるこの機能は、本格導入は実はパチンコからだったと記憶しています。それは2002年登場の山佐「ネオプラネット」です。

意外にもパチンコから

有機EL画面をリアル前面に設置した当時における超画期的装置で、画面上で様々な演出が行われました。そしてパチンコの演出もある

ためか、その出現頻度をユーザーが任意で設定することが可能でした。

プラネット系の大量リーチ目と共にEL画面での演出、更にはボーナス解除までのプロセスをEL画面で連続的に演出する究極の機能は、未来のパチンコの可能性を無限に感じさせるものでした。演出表示設定の味付けはHIGHとLOWでかなり強い味付けになっており、HIGH設定ではほぼ毎ゲーム演出が起き、逆にLOWでは画面が作動する事はほとんどありません。そしてその状態が崩れるとボーナス解除まであと少しかなと感じさせるものでした。私もつい最近実機に触れる機会がありました。その珠玉の名機は今なお色褪せたとは全く感じない仕上がりでした。



ネオプラネットの演出表示設定画面。LOWでは演出が発生しただけでドキドキ、逆にHIGHでは演出が数ゲーム発生しなくなれば…？
©YAMASA

アニメで十分に活用

そして現在では、主にパチンコで演出カスタム機能搭載機が登場しています。アニメ系を中心に搭載され、登場キャラクターの成長などで演出カスタムの幅が広がるといったパターンが多く見られます。カスタムの幅はモードの選択から出現率の調整まで出来るものまで幅広くあり、遊技機の長期稼働貢献に向けた機能として導入が進められています。

これにより、同一機種を打ち続けることよって生じやすい「飽き」の部分や、設定された演出と打ち手の間にある演出や信頼度の「違和感」を調整することで、いわゆる「しっくりくるゲーム性」に仕立てることが出来るという事です。

情報が提供されるべき

残念なことには説明書きやカスタム開放に関する案内を設置してあったホールはあまりありません。これはダウンロードサイトで演出カスタム系情報素



CR廻りばんちんこ花満開。モード選択式で、特に告知モードの花満開は秀逸。無音やひっそり告知などの出現頻度が上がる「通」好みの味付けが特徴
©NISHIJIN



CRエヴァンゲリオン9の演出カスタム選択画面。調整幅は非常に広く、シンプルモードや先読み無効に設定すると、別の機種のように演出が変化する
©カラー©Bisty

材の掲載が無いため、ホールが手作業で制作して掲載しなければならぬこと、つまりメーカー側から演出カスタム情報の公式アップロードが無かったり、具体的情報が公開されなかったりといった「アフターケア不足」問題も内在しています。

勿論しっかり対応しているメーカーもあります。その情報の幅、深さはもともとメーカーの口からユーザーに伝わるようになって欲しいものです。

ホール側も「わざわざこっちで作らんでもネットで勝手に調べるさ」「遊技説明も見えない客にカスタム機能説明をしても意味がない」。ご意見ごもつとも。しかし、絶え間なき努力を惜しまず、結果成功しているホールは多くあります。まずは遊技機の情報を厚くユーザーに提供することから見直ししてみたいかがでしょうか。今まで低稼働だったあの機種、ひよっとすると息を吹き返すかも知れません。

(大和田敏男)

自分の手で遊びを作る

ぱちんこ言葉物語

43